福井新聞　（明治32年8月11日 第3種郵便物認可）　第43247号　（日刊）

福井新聞

2022年（令和4年）
9月23日
金曜日
秋分の日

発行所
福井新聞社
福井市大和田2丁目801番地
郵便番号　910－8552
電話　0776(57)5111
https://www.fukuishimbun.co.jp
© 福井新聞社 2022年
お問い合わせは
読者センターへ
☎0776(57)5140
（日曜・祝日を除く
午前9時～午後5時）
福井新聞ご購読申し込み
0120-291-001
（日曜・祝日を除く
午前9時～午後5時）

声なきSOS
福井のヤングケアラー ❶

私しかいない 運命呪う

弟世話 孤独だった10代

10歳下の弟のおむつを替え、ミルクを作る。ごみだらけの部屋に虫が這う。母親はきょうもパチンコで、遅くまで帰らない―。十数年前、小学校の高学年だった20代のリサ（仮名）は、親の代わりに弟を世話する「ヤングケアラー」だった。

3歳の時に両親が離婚。県外から母の地元福井に引っ越した。母はギャンブルに依存し、しょっちゅう家を空けた。まともに働いた姿を見たことがない。リサは、後に生まれた弟2人の母親代わりとして身の回りの世話を担った。

中学生になっても状況は変わらなかった。学校から帰宅すると、保育園に預けた下の弟を自転車で迎えに行き、手をつないで夕暮れの中を歩いた。作りたての晩ご飯のにおいが近所から漂う。「普通の家庭がうらやましかった」。手料理を食べた記憶はなく、いつもレトルト食品だった。

ヤングケアラーとして過ごした10代を「孤独だった」と振り返るリサ＝福井市内

当時は「健康保険にすら入っていなかったと思う」。高熱が出ても、部活動で足首をねんざしても、病院に行かなかった。母は下の弟を自宅で産んだ。「訳も分からず、出てくる頭を私が引っ張った」。リサはネグレクト（育児放棄）の犠牲者でもあった。

抵抗しなかったわけではない。中学校に上がるころ、荷物をまとめて家出した。国道8号の陸橋を歩いているところを警察に保護され、家に引き戻された。「逃げても解決しないことは分かっていた。代わりは誰もいなかったんだから」。運命を呪いながら、弟の世話を続けた。

孤立無援の中、福井市の県立高に進学した。1年生のある日、事態が一変する。どこで情報をつかんだのか、児童相談所職員が一家の元を訪れた。弟2人を児童養護施設に入所させることが決まった。

「大丈夫、大丈夫やから」。児相の事務所で、小学校に上がるかどうかの下の弟をなだめ続けた。守ってやれなかった―。無念さがこみ上げ、涙が止まらなかった。

間もなく高校を辞め、母のいる家を出て飲食店で働き始めた。「一人で生きよう」。ヤングケアラーの日々が終わりを迎えた。（宮崎翔央）

× × ×

家事や家族の世話を日常的にしている子ども「ヤングケアラー」。中高生を対象にした福井県の調査で少なくとも1クラスに1人から2人いる結果が出ている。県内の実態や支援の動きを5回シリーズで紹介し、「声なきSOS」に耳を傾ける。

※次回から社会面に掲載します。

ヤングケアラー　年齢に見合った手伝いの範囲を超え、本来は大人が担うべき家事や家族の世話を日常的にしている子ども。法令上の定義はないが一般的に18歳未満を指す。病気や障害がある家族の介護のほか、幼いきょうだいの世話、ギャンブル問題を抱える家族の対応、家計を支えるアルバイトなど負担は多岐にわたる。学業に支障が出たり、健康状態に影響したりすることが懸念される。表面化しづらく、孤立する傾向が強い。

2022.9.24
福井
新聞定価 月ぎめ本体価格 2,871円（消費税込み 3,100円） 1部売り（税込み）130円 （第3種郵便物認可）

家の恥 誰にも言えない

声なきSOS 福井のヤングケアラー ❷

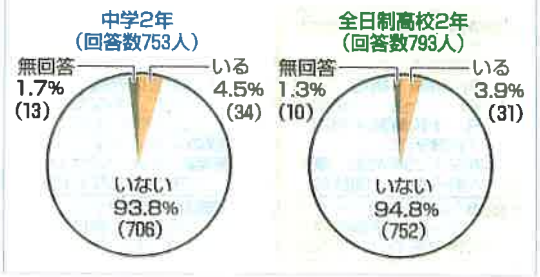
福井県立高の1年途中までヤングケアラーとして弟を世話した20代のリサ（仮名）。中学から付き合う友人に過去を明かすと「全く知らなかった」と驚かれる。当時は近所付き合いがなく、同級生にも学校にも真実を隠していた。

友人が家に来ても「玄関で迎え、すぐ外へ出た。絶対に中へ入れなかった」。ごみだらけの環境で弟を世話する現実は「恥ずかしく、ばれてはいけないもの」だった。

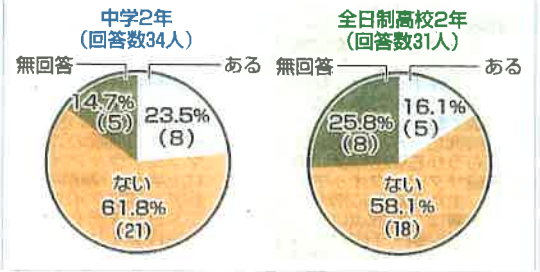
無気力感に襲われ学校はよくサボった。弁当の持参が必要な日は、料理をしない母に「休みなさい」と言われた。そんな時、「世間体だけは気にする」母が必ず学校に風邪をひいたと伝えた。担任の家庭訪問でも、見える範囲だけ整頓した玄関先で無難に応じた。学校も、福祉機関も、家出した際の対応に当たった警察も、実態に気付くことはなかった。

福井県のヤングケアラー実態調査（昨年）

世話している家族がいるか



世話について相談したことは



頼れる大人が欲しかった

■■■

誰にも相談できない―。当事者の孤立は、多くのヤングケアラーに共通して見られる特徴だ。

福井県が昨年9、10月に初めて行った中高生（ともに2年生）への実態調査によると、「家族を世話している」との回答は4％前後（高校は全日制）と、少なくとも1クラスに1人から2人いる結果が出た。このうち約6割が「誰にも相談したことがない」と答え、「今の状況について話を聞いてほしい」「将来の相談に乗ってほしい」などと孤独感をあらわにする回答も一定数見られた。

日本ケアラー連盟理事の中村健治さん（北海道社協）は言う。

「日本では世帯人数が縮小したのに、いまだに家庭内のケアは家庭でとの固定観念が根強く、18歳未満が担い手になる例が増えてきた。子どもたちは発覚を恐れたり、世話を当たり前だと思い込んだりする傾向がある。事情も知らずにヤングケアラーを『家族思いの偉い子』と美化する考え方もあり、人知れず悩みを抱えてしまう」

■■■

現在、リサは働きながら子どもを育てるシングルマザーとなった。母とは7年近く連絡が途絶えている。

「もう会うことはない」

弟2人と過ごした10代。悪臭の漂う部屋で時折、父親が欲しいと強く願った。3歳の時に両親が離婚したから、顔も声も知らない。「もしお父さんがいたら、違ったんだろうな」。話を聞いてくれ、信頼できる大人を求めていた。

（宮崎翔央）

2022.9.25
福井
新聞定価 月ぎめ本体価格 2,871 円（消費税込み 3,100 円） 1 部売り（税込み）130 円 （第３種郵便物認可）

20代、終わりなき葛藤

家族か夢か、岐路に直面

声なきSOS 福井のヤングケアラー ❸

「男手があると違うね。助かるよ」と母がほほえむ。東京で暮らす20代のマモル（仮名）は、福井県内の実家に数カ月ぶりに帰り、脳に障害のある妹の入浴を介助した。穏やかな顔を見ていると、いくつになってもかわいいと思う。

父と離婚した母は50代半ばになる。同居する姉に今後の全てを任せるわけにもいかない。「好きな仕事を辞めてでも福井に戻るべきじゃないか」。年齢を重ね、心の葛藤が大きくなるのを感じる。

生まれつき会話や歩くことができない妹のため、中学生の頃からおむつ交換や入浴、食事といった世話を手伝ってきた。「家族を守るのは当たり前」と考え、負担だと感じたことはない。高校卒業後、興味のあった仕事に就くため県外の専門学校に進んだ。学費は母が「好きな道に進みなさい」と用意してくれた。

第1希望だった東京の企業に採用された。休日には友人と飲み会に出掛けたり旅行したりと、「ごく普通の社会人生活」を送ってきた。母が介護される立場になったら、姉が結婚などを機に実家を離れたら…。家族のために会社を辞めて福井に戻ると伝えれば、母はきっと反対するだろう。「妹のケアに終わりはない。問題は、誰がどう担うか」。姉とはまだ踏み込んだ話ができていない。

ヤングケアラーの多くが18歳以降も家族や自身の将来について悩みを抱き続ける＝福井市の福井大文京キャンパス（写真と本文は関係ありません）

■ ■ ■

「家族に申し訳ない」「罪悪感がある」。ヤングケアラーの研究や支援に取り組む立命館大の斎藤真緒教授（家族社会学）によると、進学や就職、結婚などに直面する18歳以降の当事者は、こうした感情を抱く傾向が強い。ケアの責任感から自身の可能性を諦めてしまうのだという。

ヤングケアラーは「18歳未満の子ども」とされ、学校との関わりや児童福祉の観点で問題が捉えられやすい。これに対し、斎藤教授は「子どもの側面が強調され過ぎると、18歳以降は自己責任論で切り捨てられてしまう」と懸念を示し、幅広い年代を含めた「若者ケアラー」という表現を提唱する。

全国に先駆けて昨年6月に専用の相談窓口を開設した神戸市も、支援対象を「子ども・若者ケアラー」とし、20代を支える姿勢を前面に出す。きっかけとなったのが2019年に同市内で起きた事件。20代女性が孤立無援の状態で認知症の祖母をケアし続け、苦悩の末に殺害した。市の担当者は「二度と悲しい事件を繰り返さないという反省が、市の施策の前提にある。当事者のライフステージに合わせた切れ目ない支援が必要だ」。

（宮崎翔央）

2022.9.26

聞

新聞定価 月ぎめ本体価格 2,871円（消費税込み 3,100円） 1部売り（税込み）130円 （第3種郵便物認可）

支援「家族丸ごと」が鍵

親を加害者と決めつけず

声なきSOS 福井のヤングケアラー ④

「2人ともうまくできたね」。福井県内の児童家庭支援センター（児家セン）が開く料理教室で、職員は中学生姉妹の様子をそっと見守った。小学生の頃から多忙な母に代わって簡単な家事を分担してきた2人。食べ物はレトルトに偏り、包丁の扱いもままならなかった。栄養面が改善され、姉妹の自立にもつながるはず―。児家センは料理を通した支援活動を続ける。

全国に160カ所以上、県内に4カ所ある児家セン。親子関係の相談・支援業務に当たり、児童相談所や市町、学校との連絡調整役も担う。担当者に「母子家庭の一家が困窮している」との情報が入ったのは数年前。姉妹は夜勤の母の帰りを待って昼夜が逆転し、不登校だった。ただ、母を慕い、母も姉妹のため必死に働いていた。

「この家庭に必要なのは親子の分断ではなく自立への後押し」。担当者は支援方針を定めると、人混みを苦手とする姉妹のため、2人だけの料理活動の場を毎月設けた。姉妹は簡単なレシピを覚え、「お母さんにあげたい」とケーキを作ることもあった。教室への参加が弾みになったのか、児家センが開く外出の催しにも時折顔を出し、学校にも少しずつ通い始めた。

児童家庭支援センターによる子ども向け料理教室の会場＝県内

■ ■ ■

ヤングケアラーとその家族を支援する課題を整理しようと、福井県を含む5県・政令市の児家センが本年度、日本財団の助成を受けて事例研究事業に取り組んでいる。毎月1回のオンライン会議の中で、姉妹のケースも個人情報に配慮しながら取り上げられた。児家センと専門家が支援の鍵に挙げるポイントの一つが「家族丸ごと支援」の視点だ。

姉妹のケースでは担当エリアの児家センが子ども食堂と連携しながら、食材を一家の元へ届ける活動も継続している。介入が家族にとって負担に感じないよう、担当職員はこうしたわずかな接触の機会に近況を尋ね、母親の精神的ケアにも気を配る。母親は最近、夜勤明けでも姉妹の学校の送迎をするようになったという。

「ヤングケアラーを被害者、その親を虐待の加害者と位置付けるような単純な見方では、いつまでも問題は解決しない」。全国児童家庭支援センター協議会の会長で、越前市の児家セン「一陽」統括所長の橋本達昌さん(55)は話す。「子どもへの支援と、親やケアされる側への支援は常にセットで考える必要がある」 （宮崎翔央）

2022.8.27

新聞　　新聞定価 月ぎめ本体価格 2,871 円（消費税込み 3,100 円） 1 部売り（税込み）130 円　（第３種郵便物認可）

当事者つなぐ場 各地に

悩みを共有 福井でも

声なきSOS 福井のヤングケアラー ❺

今年5月、石川県の民間支援団体「ヤングケアラープロジェクトいしかわ」のSNS（交流サイト）にメッセージが届いた。「みなさんの活動に興味がある。話を聞かせてください」。送り主は石川に住む男子学生。小さい頃から母親のケアを担う当事者だった。

団体は市民有志が4月に立ち上げ、同月下旬に支援の拡充を考えるシンポジウムを開催したばかり。メンバーが話を聞くと、学生はケアを巡る悩みを家族以外に相談したことがないと明かした。「悩みを打ち明けるのは家族の否定になるのではと、ためらう人も多い。気持ちはよく分かる」。団体発起人の一人で北陸学院大講師松本理沙さん(36)は話す。自身も重度障害のある3歳下の弟を幼少期から世話してきた。

連絡を寄せた学生は、団体が9月中旬に初めて開いた当事者の集まり「ケアラーカフェ」を訪れた。他にも同世代の参加があり、悩みや現状を打ち明けた。「同じ境遇の人と会うのは初めて」と参加者たち。予定の2時間では話し足りない様子で、別会場に移り交流を続けた。団体代表で元大学教員の五十嵐峰子さんはプロジェクトの意義について「ゆるくても長くつながっている存在でありたい。当事者が困ったとき、悩んだとき、いつでもアクセスできるように」。

当面の活動内容を話し合う「ヤングケアラープロジェクトいしかわ」のメンバー＝金沢市役所

■　■　■

国は2022～24年度を「ヤングケアラーの認知度を高める」「集中取組期間」と位置付け、先進的事業を行う自治体に費用を補助する。福井県はこの制度を活用して8月末から、当事者が集うオンラインサロンを始めた。初回は中高生ら3人の参加があり、元ヤングケアラーという社会人は「当時もこんな場があればよかった」と、孤独だった過去を振り返った。県による支援の取り組みが本格的に始動した。

全国では北海道や埼玉県、一部の市町が「ケアラー支援条例」を施行。行政の責務を明確にし、推進計画の策定を義務付けるなどしている。神戸市や群馬県高崎市は中高生ら向けに、家事代行のスタッフを無料派遣する事業を始めた。

日本ケアラー連盟理事の中村健治さん(北海道社協)は言う。「周囲の大人が小さなSOSにどう気付くか。ヤングケアラーは身近にいる。その意識を持つことが支援の第一歩だ」

（宮崎翔央）

＝おわり＝

感想をお寄せください

この連載に関する意見や体験談をメールでお寄せください。プライバシーに配慮した上で、紙面などで紹介する場合があります。宛先は福井新聞社報道部「声なきSOS」取材班（houdou@fukuishimbun.co.jp）

オンラインで県サロン開催

毎月、リアル会場も

福井県はヤングケアラーがネット上で集うオンラインサロンを来年3月まで毎月開く。発言せず聴くだけでも、カメラをオフにして顔を出さなくてもOK。担当者は「悩みを共有することで少しでも心が軽くなれば」と参加を呼びかけている。

各回午後2時～同4時。委託先の一般社団法人「みんなの居場所withふくい」(若狭町)代表者が進行役を担う。元ヤングケアラーの参加も歓迎している。オンラインと同時にリアル会場も設ける。

各回の前日までに専用フォーム＝上のQRコード＝かメール（withfukui@gmail.com）で申し込む。名前はペンネームでも可。接続用端末がない場合は貸し出す。（宮崎）

サロンの日程は次の通り。

▽10月15日　県立大企業交流室（永平寺町）
▽11月20日　結とびあ（大野）
▽12月10日　高椋コミュニティセンター（坂井）
▽1月22日　さばえNPOセンター（敦賀）
▽2月18日　あいあいプラザ
▽3月12日　福井市ボランティアセンター